

1 2. 高齢者・障害者支援分野における 国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

高齢者・障害者支援分野は、高齢者・障害者への配慮に係る分野横断的な標準化、福祉機器・用具の標準化を行っている。

この分野に関しては、国連総会において平成18年（2006年）12月、障害者の差別禁止を含む、自由権・社会権などの諸権利の確立を目的とする権利条約が全会一致で採択されるなど、国際的にも社会基盤の整備が求められている。

ISOにおいても、世界的な高齢化の進展や、障害者への配慮の必要性を確認し、平成12年（2000年）6月、ISO/IEC政策宣言「標準化業務における高齢者・障害者のニーズの考慮」を発表している。宣言では、人間の能力又は限界の範囲をより広くカバーするアクセシブルデザインを標準に導入することを勧奨している。これにより日本が主査を務めたISO/IECガイド71（規格作成における高齢者、障害者のニーズへの配慮ガイドライン）を平成13年（2001年）11月発行し、高齢者・障害者配慮を盛り込んだ規格作りの推進を打ち出している。また、ISO/COPOLOCO（消費者政策委員会）は、現在もトッププライオリティの一つとして高齢者・障害者配慮を挙げている。

一方、我が国では、高齢者障害者基本計画（平成14年12月）の中で、ガイド71の重要性が取り上げられ、ガイド71の翻訳規格であるJISZ8071（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針）が、平成15年（2003年）6月制定された。現在では、この配慮設計指針に沿った規格が約30制定されている。

このように、高齢者・障害者に配慮した規格が整備され、製品の普及も進展している我が国は、社会基盤の整備が国際的に求められているこの分野の国際標準化の場において、リーダーシップを発揮しやすい状況にある。

2. 重点TC/SC等の選出及び国際標準化戦略

高齢者・障害者支援分野の標準化は、「高齢者・障害者配慮設計指針（アクセシブルデザイン）」及び「福祉用具」を中心に開発が進められている。重点TCの選出においては、これらを勘案して選出する。

【高齢者・障害者配慮設計（アクセシブルデザイン）の推進】

ガイド71策定作業においてリーダーシップを発揮した我が国においては、国際的にも高齢者・障害者に配慮した規格が整備され、製品の普及も進展している。このため我が国は、国際的な標準化推進の役割を果たすことが、欧州をはじめ各国から期待されている。こうした世界的要請に応えることは、世界に先駆けて高齢化に直面する我が国の果たすべき国際的な責務と考える。

よって、日本が平成19年（2007年）に国際規格提案した5つのアクセシブルデザイン規格の審議を行っているTC122（包装）及びTC159（人間工学）並びに国際規格提案を今後予定しているTC/SC等を、重点TC/SC等として選出する。

（国際提案している規格）

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器

(国際提案予定の規格)

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－触知案内図の情報内容及び形状並びにその表示方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－公共トイレにおける便房内操作部の形状、色、配置及び器具の配置
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－点字の表示原則及び点字表示方法－公共施設・設備
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－最小可読文字サイズ設定方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－音声の音圧レベル設定方法

重点TC/SC等における日本の標準化活動は、国際的な標準化推進の役割を果たすとともに、高齢者・障害者への配慮製品等は、新たな経済利益にもつながることから、市場拡大の観点で、諸外国の高齢者・障害者のニーズ、規格整備状況等を確認しつつ戦略的に実施していくことが重要である。

このために、国際障害者関連団体、国内障害者団体等のアクセシブルデザインに関するニーズ、各国の規格の実態調査を行うとともに、体系的アクセシブルデザイン規格の整備について検討する。また、規格開発に必要な加齢や障害特性に関する人間の科学的なデータ、人種文化等の相違の検討に必要な国際比較データの収集を行う。

また、日本がリーダーシップを発揮するためには、アジア諸国との連携が不可欠である。北東アジア標準協力フォーラムから発足した「日中韓アクセシブルデザイン標準協力委員会」を通じてアジア諸国との連携体制を構築し、日本からの提案を確実に国際規格化するための枠組みづくりを推進することとする。

【福祉用具の標準化の推進】

高齢者・障害者の自立生活を支援する福祉用具は、身体への親和や生活環境への適合が強く求められる。しかし福祉用具の国際標準は、欧米人の体型及び生活様式を中心に検討されてきたため、欧米人とは体型及び生活様式の異なるアジア人には適合しにくいと思われる規定が散見される。これまでもアジア人に使いやすいよう国際規格の改訂を粘り強く進めてきたが、今後は、国際規格作成初期から積極的に参画し日本の意見を反映するとともに、アジア人の体型及び生活様式を考慮した規格案等を体系的に検討し、国際的に提案していくことが必要である。そのため関係するTC168(義肢装具)及びTC173(福祉用具)を重点TCとして選出する。

(国際提案している規格)

- ・ 皮膚保護剤の試験方法

- ・歩行補助具の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦
- ・歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性
(国際提案予定規格)
- ・下肢装具構造強度試験方法
- ・車いすのリクライニング試験方法
- ・視覚障害者誘導用ブロック

国内では、介護保険法の導入に伴う福祉用具の利用機会の増加によって、JISマークに、福祉用具の貸与、購入の際の判断基準としての役割が期待されている。このため製品規格の体系的な整備に着手したところであり、今後、福祉用具を対象とする製品規格が数多く開発される見込みである。ここで開発された規格については、国際規格にないものは、国際貢献の観点から積極的に国際提案していくとともに、日本人特有の体型等に起因し国際規格との不整合が生じるものは、国際規格の改訂を積極的に提案していくこととする。

また、国際標準化の場において日本のプレゼンスを高めるためには、体型、生活様式等が類似したアジア諸国との連携が不可欠である。北東アジア標準協力フォーラムから発足した「日中韓福祉用具の標準化に係る意見交換の場」を通じて、日本からの提案を確実に国際規格化するための枠組みづくりを行うこととする。

3. 重点TCの活動状況

(1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称等

6. (1) に示す。

(2) 対象としているTC/SC/WGの最近の動向

【TC122 (包装)】

イランとのツイニング方式によって、日本が幹事国に就するとともに、議長を務めている。日本から提案したアクセシブルデザインに関わる国際規格を審議するため、新たにWG9 (包装におけるアクセシブルデザイン) が設置され、日本は、事務局及び主査を務めている。

【TC159 (人間工学)】

○AGAD (アクセシブルデザインに関する諮問グループ)

高齢者・障害者のニーズを円滑に規格作成に反映させるため、TC159 内に新たに AGAD が設置され、日本は、事務局及び主査を務めている。

○WG2 (人間工学/高齢者・障害者配慮)

日本は、事務局及び主査を務めている。

日本が提案した ISO/TR22411 (高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品やサービスに向けてガイド71を適用する際の人間工学的データ指針) についての審議が終了し、2008年にTRとして公表されている。

○SC3 (人体計測と生体力学)

日本は、幹事国及び議長を務めている。

OSC4（人間とシステムのインタラクション）

日本は、WG1（制御器と信号表示法の基礎）の事務局及び主査、WG6（インタラクティブシステムの人間中心設計過程）のプロジェクトリーダーを務めている。

また、日本から提案した「高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示」の規格を審議するため WG10（消費生活用製品のアクセシブルデザイン）が設置され、日本が事務局及び主査を務めている。

さらに、高齢者・障害者にも配慮しながら情報通信（IT）関連機器やソフトウェアの使い易さ等の規格作成を積極的に進めている。

OSC5（物理的環境の人間工学）

日本は、WG5（特別な配慮を必要とする人々のための物理的環境）の事務局及び主査を務めており、日本から提案した「高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音」等、3件の規格の審議を進めている。

【TC168（義肢装具）】

OWG1（用語）、WG2（医学的側面）

WG1 と WG2 は合同で、定期的に会議を年2回開催している。

OWG3（試験法）

義足の構造強度試験方法に関する主要規格が成立し、各国は、ISO22675 に準拠した新しい義足足部・足継手部の実証試験のための試験機を製作して自国の義肢部品を用いた確認試験を進めている。また、小児を含む体重 50kg までの超軽量級や、体重 100kg を越える超重量級の義足試験負荷値の根拠となる基礎データ収集が続いている。今後は装具や義手などに関する新たな試験方法について扱うものと思われる。

【TC173（福祉用具）】

アクセシブルデザインに関わる国際規格を審議するため、TC173 総会において日本から新規 SC 立ち上げの提案を行うことが承認されている。

OWG1（歩行補助具）

日本は、事務局及び主査を務めている。日本が提案した「歩行補助具の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦」及び「歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性」についての審議が進められている。

OWG7（視覚障害者誘導のための設備）

日本は、事務局及び主査を務めている。なお、日本が提案した「視覚障害者誘導ブロック」のプロジェクトが平成 19 年（2007 年）にキャンセルされた。また、平成 20 年（2008 年）に開催された TC 173 総会において、WG7 は解散されたものの、誘導ブロックのプロジェクトについては審議を再開するための再提案を日本が行うことが承認された。日本は、平成 20 年（2008 年）に誘導ブロックの再提案を正式に行い、平成 21 年（2009 年）3 月に承認のための投票が開始された。

OSC1（車いす）

車いすの試験方法、座位保持、自動車への拘束について規格が制定されている。リクライニング機能について試験方法を開発し、提案作業を行っている。

OSC2（分類と用語）

ISO9999「国際福祉用具分類」とICF（国際生活機能分類）との整合性を図るための改訂作業に着手しているものの、2011年版には間に合わないため、2014/15年版の改訂を目指し、準備に取りかかっている。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

日本は、WG4（洗腸セット）及びWG5（皮膚保護剤）の事務局及び主査を務めている。WG5では、日本提案の「皮膚保護材－試験方法」について、ラウンドロビンをテストを行うこととなっており、その結果を受けて会議を開催する予定。

OSC6（障害者リフト）

障害者リフトの規格は、GEN主導で審議されている。

ISO/173, IEC/SC62 ジョイント委員会

ジョイント委員会では、IEC60601-2-52「医療介護用ベッドの安全性と基本性能に関する個別要求事項」の改正作業を行っており、2009年中には改正される見込み。

4. 我が国の活動実績（2008年）

【TC122（包装）】

（1）全体概要

日本は、イランとのツイニング方式によって幹事国及び議長を務めている。

日本から新規提案した「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」について、審議を行うため、新たにWG9（包装におけるアクセシブルデザイン）を設置することとなり、日本は、このWGの事務局及び主査を務めることとなった。

また、GENの関係会議に積極的に参加し、提案した規格内容を直接説明することによって、欧州各国との合意形成に努めた。

新規提案の「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」は、精力的な審議を行い、WD11156（包装－アクセシブルデザイン－一般指針）としてCD化に向けた投票を行うこととなった。

（2）活動実績（アクセシブルデザインに関わるもの）

①新規提案数：1件

②国際会議：

（参加実績）

－TC122/WG9

（日本での国際会議開催実績）

－TC122/WG9（10/11 東京）

③幹事国・議長等引受実績

－事務局：1 件

－主査：1 件

【TC159（人間工学）】

（1）全体概要

○AGAD（アクセシブルデザインに関する諮問グループ）

TC159 加盟国にメンバーを募集するとともに、関連する国際的な障害者団体に対し協力要請を行った。また、アクセシブルデザイン規格策定のための提案を TC159 内や他の TC に発信するため準備を進め、第 1 回 AGAD を平成 20 年（2008 年）にスイス・ジュネーブ市で開催した。

○WG2（人間工学／高齢者・障害者配慮）

日本は、事務局及び主査として、日本が提案した ISO/TR22411 の制定作業を精力的に進めた結果、TR として制定されるに至った。

○SC3（人体計測と生体力学）

日本は、幹事国及び議長を務めている。欧州だけのデータによる規格化の方向に歯止めをかけるため、日本人の人体計測データを提供した。

○SC4（人間とシステムのインタラクション）、SC5（物理的環境の人間工学）

SC4 では、日本から提案した「高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示」の規格を審議するため WG10（消費生活用製品のアクセシブルデザイン）が設置されたが、日本はその事務局及び主査を引き受け、積極的に審議を進めた。

SC5 では、日本から提案した「高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音」ほか 2 件の規格を審議する SC5/WG5（特別な配慮を必要とする人々のための環境）の事務局及び主査として積極的に審議を進めた。

その他、日本は WG1 の事務局及び主査、WG6 のプロジェクトリーダーを務め、審議の円滑な推進に貢献した。

また、「高齢者・障害者配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第 1 部：共通指針」について、提案国として積極的に審議を進めた。

北東アジア標準協力フォーラムから発足した「日中韓アクセシブルデザイン標準協力委員会」の一環として、中国及び韓国に対して、アクセシブルデザインに関わる国際標準化の進捗等を情報提供し、引き続き日中韓の協力によって国際標準化を推進して行くことを確認した。

また、中国、韓国以外のアジア各国（タイ、マレーシア、シンガポール）に対し、アクセシブルデザイン標準化に関して広く情報発信を行い、当該分野の国際標準化への理解及び参加促進を目的としたアジア連携の構築を図った。

（2）活動実績

①新規提案数 なし

②国際会議

(参加実績)

- TC159 総会および SC1、SC3、SC4、SC5 の分科委員会、各 WG および TC159/WG2 会議が
合計 28 回開催され、延べ 122 名が出席

(日本での国際会議開催実績)

- TC159/WG2 (2/27-29 茨城つくば)
- TC159/SC4、SC4/WG1、WG5 (5/26-30 北海道千歳)
- TC159/SC4/WG2、SG2 (10/26-28 東京)

③幹事国・議長等引受実績

- 幹事国：1 件
- 議長：1 件
- 事務局：6 件
- 主査：5 件

【TC168 (義肢装具)】

(1) 全体概要

○WG1 (用語)、WG2 (医学的側面)

2008 年 5 月に広島で WG1、WG2 の合同作業部会を開催するなど、積極的に会議に参加した。

○WG3 (試験法)

義足足部・足継手部の構造強度試験方法 (ISO22675) に従った試験機の製作を進め、国産の義足足部・足継手部の確認試験の準備を行うとともに、この試験機を応用した下肢装具試験方法の検討と実験を進めている。また、日本を含む東南アジア地域の軽量級の下肢切断者の義足負荷データ収集に向けて、市販の 6 分力計を用いた小型軽量のデータ収録システムの試作を進めている。これらの成果については WG3 会議を通じて各国との情報交換を行っている。

(2) 活動実績

①新規提案数 0 件

②国際会議

(参加実績)

- TC168/WG1, WG2 1 名
- TC168/WG3 2 名

(日本での国際会議開催実績)

- TC168/WG1, WG2 (5/7-10 広島)

③幹事国・議長等引受実績

なし

【TC173 (福祉用具)】

(1) 全体概要

平成 20 年（2008 年）10 月に、ドイツ・ベルリンで開催された TC173 総会において、日本からアクセシブルデザインに関する新規 SC 設置の提案を行うことが承認された。

OWG1（歩行補助具）

日本は、事務局及び主査を務めており、積極的な審議の推進によって、日本が提案した「歩行補助具の先ゴム—要求事項と試験方法—第 1 部：先ゴムの摩擦」は FDIS として承認され、投票に付されることになった。

また、引き続き日本から提案した「歩行補助製品の先ゴム—要求事項と試験方法—第 2 部：先ゴムの耐久性」についても、プロジェクトリーダーを日本が引き受け、積極的な審議の推進によって DIS として承認された。

また、5 月には日本で国際会議を開催した。

OWG7（視覚障害者誘導のための設備）

平成 19 年（2007 年）7 月に視覚障害者誘導用ブロックのプロジェクトがキャンセルされたため、日本からプロジェクト再開に向けた提案の準備を行ってきたが、平成 20 年（2008 年）の TC173 総会において、WG7 は担当するプロジェクトがないために解散となったが、視覚障害者誘導用ブロックのプロジェクト再開に向けて、TC173 議長や国際幹事などに対し、積極的な働きかけを行い、平成 20 年（2008 年）の TC173 総会において、日本からプロジェクト再開に向けての国際提案を行うことが承認された。また、当該総会決議を受けて、日本から誘導ブロックの国際提案を正式に提出し、平成 21 年（2009 年）3 月に承認のための投票が開始された。

OSC1（車いす）

利用者の体格など身体的特徴により必要となる強度などが異なってくるものや、生活習慣と関わりの深い規定は、日本の事情を繰り返し説明した。JIS で規定されている車いすの試験方法のうち、国際規格にないリクライニング時における安定性等について、国際規格の改正案提出に向け、試験データの取得を行った。

OSC2（分類と用語）

ISO9999「国際福祉用具分類」改訂作業において、ICF 関連の改訂作業に積極的に参加するとともに、車いすの分類においても我が国の考え方が入るように提案、改正を行った。また、共用品とユニバーサルデザインを分類にどう取り入れるかについて積極的な議論を展開した。これらは次回改訂作業（第 5 版）の準備として行ってきており、この改訂作業は NWI として承認されていることから、今後、反映されるものである。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

日本は、WG4（洗腸セット）及び WG5（皮膚保護剤）の事務局及び主査を務めているおり、日本から提案している「皮膚保護剤の試験方法」の積極的な審議の推進によって WD に進捗させた。

OSC6（障害者リフト）

この分野は GEN 主導で審議されている中で、SC6 の議長に立候補を表明するなど、当該分野に積極的に参加した。

○ISO/173, IEC/SC62 ジョイント委員会

国際会議に積極的に参加し、IEC規格の「在宅で使用する医療介護用ベッド安全規格」の全面改訂作業において、日本における利用者の身体的特徴により必要となる強度や寸法が異なるものや、生活習慣と関わりの深い規定は、日本の事情を繰り返し説明した。

(2) 活動実績

①新規提案数：0件

②国際会議

(参加実績)

－ISO/TC173 12名

－ISO/TC173/SC1 24名

(日本での国際会議開催実績)

－ISO/TC173/SC1/WG1, 8, 10, 11 (5/24-30 埼玉所沢)

③幹事国・議長等引受実績

－事務局：3件

－主査：3件

5. 我が国の活動計画(2009年)

【TC122(包装)】

(1) 全体概要

日本から提案したWD11156「包装—アクセシブルデザイン—一般指針」について、幹事国及び議長として積極的に討議を進め、DIS化を目指す。

また、引き続き、日中韓の枠組みによる国際標準化を推進するとともに、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、次なるテーマについて、各国の協力を求める。さらに、欧州に対しても合意形成のため積極的に働きかける。

(2) 新提案予定件数：0件

(3) 幹事国引受予定件数：0件

【TC159(人間工学)】

(1) 全体概要

○AGAD(アクセシブルデザインに関する諮問グループ)

事務局及び議長として、アクセシブルデザイン規格の推進のための国際的な障害者団体との連携や、日中韓の枠組みによる国際標準化を推進するとともに、アクセシブルデザイン規格策定のための提案をTC159内や他のTCに発信していく。

○WG2(人間工学/高齢者・障害者配慮)

高齢者・障害者配慮規格開発に必要な、加齢や障害特性に関する人間の科学的データを感覚、身体、認知機能に関して収集する。また、国際比較として、音声認識の基本特性や

段差昇降に関するデータを欧州、米国、韓国、日本において収集し、人種文化によるデータの差を検討する。さらに、これらのデータをもとに新規課題として、適切な文字サイズを設計する手法や適正な音声の音圧に関する規格原案を作成し、国際提案するとともに、これら規格の基となる TR22411 の第 2 版に向けたデータ提案を行っていく。

OSC3（人体計測と生体力学）

幹事国及び議長として、欧州だけのデータによる規格化の方向に歯止めをかけるため、日本の人体計測データを積極的に提供していく。

OSC4（人間とシステムのインタラクション）、SC5（物理的環境の人間工学）

日本から提案したアクセシブルデザインに係わる 4 件のテーマについて、WG の事務局及び主査として積極的に討議を推進していく。

（NWIP テーマ 4 件）

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示

また、SC4/WG1 の事務局及び主査、SC4/WG6 のプロジェクトエディタとして、「高齢者・障害者配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第 1 部：共通指針」について、提案国として積極的に審議を進めていく。

（2）新提案予定件数：6 件

（3）幹事国引受予定件数：0 件

【TC168（義肢装具）】

（1）全体概要

OWG1（用語）、WG2（医学的側面）

WG1、WG2 の合同作業部会は定期的に年 2 回開催されるため、積極的に参加し、日本の意見を反映させていく。

OWG3（試験法）

義足の構造強度試験方法に従った試験機器の製作と運用体制の整備を行い、国産の義足について確認試験を実施し、その結果を報告する。

また、体重 50kg 程度までの超軽量級の基礎データ収集は日本が主導できるので、データ収集機器の小型軽量化及び携帯化を進め、多数の被験者データを収集していく。

「下肢装具部品の構造強度試験方法」については、国内装具部品メーカーを中心に構造強度試験方法を新たに検討し、国際提案を目指す。

（2）新提案予定件数：1 件

（3）幹事国引受予定件数：0 件

【TC173（福祉用具）】

（1）全体概要

OWG1（歩行補助具）

事務局及び主査として、日本から提案の「歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦」は、年度内に国際規格となる予定（2009年3月付けFDIS投票で可決）。また、「歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性」は年度内にDIS投票に入る予定（2008年11月付けでDIS登録が可決）である。これらの審議を推進していく。

OWG7（視覚障害者誘導のための設備）

日本から提案した視覚障害者誘導用ブロックのプロジェクトを再開するためのNP提案が承認されれば、新たにWGが設置される予定であり、日本は主査及びプロジェクトリーダーとしてDIS登録を目指してWG会議を運営する。

OSC1（車いす）

JISで規定されている車いすの試験方法のうち、国際規格にないリクライニング時における安定性等について、国際規格の改正案提出のための検討を行っていく。

OSC2（分類と用語）

ISO9999「国際福祉用具分類」の改訂作業に入ったものの、2011年版には間に合わないため、2014/15年版で改訂するための準備を積極的に行っていく。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

日本から提案した「皮膚保護剤の試験方法」について、会議への積極的参加を表明するよう、関係各国に要請を行っていく。

OSC6（障害者リフト）

障害者リフトの規格は、GEN主導で審議されているが、日本は、引き続きISO代表としてGEN会議に参加していく。

○ISO/173, IEC/SC62 ジョイント委員会

「在宅で使用する医療介護用ベッド安全規格」の全面改訂終了後も、引き続き日本からの提案活動を行っていく。

（2）新提案予定件数：1件

（3）幹事国引受予定件数：1件

6. 参考資料集

（1）高齢者・障害者支援分野のISO/TC/SC及びWGの活動状況及び重点分野

注1）◎印がついているのが重点分野

注2）日本議長、主査には○印

T C 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO/122			包装	S/P	(社)日本包装技術協会	日本、イラン	○		◎
			4 バーコード			米			
			5 用語			米			
			6 金属ドラム			オランダ			
			7 包装表示－1次元及び2次元シンボル			米			
			8 プラスチックドラム			独			
	3		包装の品質要件及び試験	P		英			
ISO/159	AGAD		人間工学	P	日本人間工学会	独			◎
			アクセシブルデザインに関する諮問グループ			日本	○		
	2	特別な配慮を必要とする人々のための人間工学		日本		○			
	1		人間工学の指導原理	P		独			
		1	作業システムの設計原則			独			
		2	精神作業に関する人間工学的指導原理			独			
		3	用語			独			
		4	ユーザビリティとその評価			独			
	3		人体計測と生体力学	S/P		日本	○		
		1	基本人体測定項目			米			
		4	筋力：手作業と許容限度			オランダ			
	4		人間とシステムのインタラクション	P		英			
		1	制御器と信号表示方法の基礎			日本	○		
		2	視覚表示の条件			オランダ			
		3	制御装置、作業上及び環境の条件			独			
		5	人間－機械の対話			英			
		6	インタラクティブシステムの人間中心設計過程			英			
		8	制御室の人間工学的設計			英			
		9	触知および触覚のインタラクション			カナダ			
			10			消費生活製品のA/D	日本	○	
		5	物理的環境の人間工学		P	英			
	1	温熱環境		デンマーク					
	4	環境との調和		英					
	5	特別な配慮		日本	○				
ISO/168			義肢及び装具	P	日本義肢装具学会	独			◎
			1			用語と分類	英		
			2			医学的見地	英		
			3			試験方法	独		
ISO/173	1		福祉用具	P	JASPA	スウェーデン			◎
			歩行補助具		NITE	日本	○		
		1	車いす	P	JASPA	南アフリカ			
		1	試験方法			米			
		6	拘束システム			オランダ			
		8	階段昇降機			オーストリア			
	10	電気関係の試験法	スウェーデン						
		11	シーティング		英				
	2		用語と分類	P	(財)テクノエイド協会	オランダ			
	3		ストーマ・おむつ・収尿器	P	排泄関連機器標準化協議会	スウェーデン			
		2	おむつ			米			
3		ストーマ	スウェーデン						
4		洗腸具	日本			○			
5		皮膚保護剤	日本			○			
6		障害者リフト	P	JASPA	スウェーデン				

TC数	SC数	WG数		幹事	議長	主査
4	9	36	日本引き受け数	2	2	8

(2) 2008年活動実績データ

①新規提案規格数1件

TC	SC	WG	規格名称	新規・改正の別
122		9	Package—Accessible design—General guidelines	新規

②国際会議実績

a) 参加実績

44回延べ170名

(TC122: 2回7名、TC159: 30回122名、TC168: 3回5名、TC173: 9回36名)

b) 日本での開催実績

TC	SC	WG	開催地	開催期間
122		9	東京	2008. 10/11
159		2	茨城	2008. 2/27-29
159	4	1, 5	北海道	2008. 5/26-30
159	4	2, SG2	東京	2007. 10/26-28
168		1, 2	広島	2008. 5/7-10
173	1	1, 8, 10, 11	埼玉	2008. 5/24-30

③幹事国・議長等引受実績(新規)

TC	SC	WG	幹事・議長・主査の別
122		9	主査、事務局
159		AGAD	主査、事務局
159	3		議長
159	4	10	主査、事務局